**第３１回登別市市民自治推進委員会　ぬくもり部会議事録**

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和３年１２月１５日（水）１８時００分～ |
| 開催場所 | 登別市役所本庁舎　２階　第２委員会室 |
| 出席者 | （部 会 長）田渕　純勝  （副部会長）雨洗　康江  （部 会 員）鎌田　和子、佐藤　画美  （庁内委員）平田　雅樹、安部　直也  （市職員）塚崎　翔太  （事 務 局）大越　智輝、佐々木　健、相馬　杏 |
| 欠席者 | （部 会 員）　今　順子 |
| 議題 | 登別市地域福祉計画について |

**（部会長）**

　本来であれば昨年度に地域福祉計画の第３期計画を策定する予定であったが、新型コロナウィルス感染症の影響により、会議を開くことができなかった。そのため市の計画期間を１年延長し、社会福祉協議会（以下「社協」という。）も計画期間を延長した。市の地域福祉計画では、検討委員会を昨年の１０月に発足し、各団体の方々１３名、事務局（市保健福祉部）を加えた体制となっている。福祉政策は重要となってきており、社協のきずな計画とも両輪と言われているが、中々難しいところがある。今回の地域福祉計画は市と社協で協議を行っている。社協のきずな計画では、きずな推進委員の方々が各町内会で地域に密着した活動を行っており、さらには、１年ごとに計画に対して評価を行い、活動の検証を行い次の年へ繋げている。第３期計画では、評価と検証行い、地域福祉計画の充実を図りたい。１２月２３日に生活・福祉委員会に計画の素案を説明し、その後パブリックコメントを実施するとのこと。

**（市）**

地域福祉計画の第３期計画（素案）の概要とポイントについて

・本編は、第１章から第６章からなり、その他にアンケート結果を別冊の資料編で作成予定。

・第１章では、今回の計画策定にあたって概要説明。

・第２章では、登別市基本情報、各種の統計資料から本市の高齢化率の推移、福祉制度の利用者の現状などを記載。

・第３章では、７つの基本目標について、今年度の夏に実施したアンケート結果を基に市民の意識やニーズを分析。そこから見えてくる課題を、第５章「施策の展開」で整理し、それぞれを項目ごとに施策の展開に繋がるようにつくられている。

・第４章は、第３期計画を進める上での基本理念・方針を記載。

・第５章は、第３章における７つの基本目標ごとの課題について、具体的にどのような取組を進めていくのか、基本目標の取組の柱ごとにまとめたものになっている。

・第６章は、用語解説、検討委員会の名簿・開催状況などを各種資料を記載。

・今回の計画策定のポイントについて、

ポイント①：全般的に見やすいものとなるように作成。これまでは文書の記載が多かったが、今回は図や写真を活用し見やすいものとなるよう作成した。

ポイント②：コロナ禍における計画策定であること。今回の計画のアンケートでは、新型コロナウイルス感染症により、市民の皆さまが不安に感じていることが回答として多く見られた。感染対策を講じながら、地域福祉の推進や市民への情報発信をどのようにするべきかを踏まえ計画の策定にあたっている。

ポイント③:社協のきずな計画と連携した計画であり、今後は各関係機関との情報共有や連携が重要となる。市では、各種相談支援の体制強化、庁内外のネットワークを基礎として包括的な支援体制の構築に向けて共通認識を持ちながら計画を進めていくこと、またきずな計画による地域での取組を市では下支えするような作りとなっている。

・第５章は現在空欄になっているが、その部分にきずな計画との関連事業を記載予定。

**（部会長）**

・今回の計画では、社協との関連も記載されている。

・社協でも第４期計画に向けて、プロジェクトチームを立ち上げている。

・前回の計画とは違い、社協のきずな計画の関連も織り込んでいくことで、今回の計画がどのようなものなのかを見ることができる。

・P42、P43の図４０はこれまでにはなかった関係図になっている。

・しかし、男女共同参画の部分の関連がない。市はこれまでも取り組んでいるが、社協はないため申し入れをしている。ジェンダー問題は避けては通れない問題である。

・SDGsについて、市と社協とで相違があるため、整合を図ったほうがよいと思う。

・地域福祉計画には、８つ目の目標が入っていない。

**（部会員）**

●高齢社会となり、認知症の方に対する取組や認知症までいかない、いわゆる予備軍の方の取組はどのように実施しているのか。一人暮らしの高齢者の場合、それを見つけることが困難であると思うが、地域で把握できているのか。早期に発見できる体制や様々なサービスを利用できるような体制づくりはどのように行っていくのか。そのような体制づくりをしている自治体とそうではない自治体とでは差が大きいと感じる。

**（市）**

　→認知症の支援については、地域包括支援センターが核となる施設である。早期発見、早期予防が大切であると言われており、人とのつきあいがなく孤立しがちな方をどのように支援するかが一番の課題。地域包括支援センターやサロンを積極的に利用している方は支援に繋がりやすいが、地域との繋がりがない方をどのように発見していくかが最も大事だと感じている。市だけではなく、社協とも連携を密にする必要がある。今回の計画の中で重層的支援体制について記載があるが、計画の中でもその仕組みづくりを行っていく必要があると感じている。

**（部会長）**

・重層的支援体制は、国からの助成金が出るものだが体制を整えるまで時間がかかり、登別市はまだ実施していない。

・このことについて、１２月の議会でも議員から質問があった。

・これが実施されれば、認知症に関連する支援も広がるかと思う。

**（部会員）**

●介護の世界では、お世話から自立支援にシフトしてきているが、市では支援だけではなく自立についてどのように考えているのか。介護を必要とする方や介護までは必要としない方、認知症になってしまった方を含め自立を支援していく方向になってきている。介護事業者だけではなく地域や自治体で取り組んでいるところもある。

**（市）**

→フレイル予防で地域に伺い、かろやか体操などを通して介護予防や、介護が必要とならないような支援も行っている。

　認知症については、市内にある認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームなどが支援に入り、どのような支援が必要なのかを考え、地域の方も巻き込みながら見守りであったり、自立について市も取り組んでいる。

**（部会員）**

●介護の分野でも自立支援が数年後には主流になってくる。市の体制としても支援という漠然とした考えではなく、自立支援という部分で寝たきりの方への実態調査やそこをサポートするご家族のケアなども含めてどのように考えているか。

**（市）**

→今、具体的にお答えすることは難しい。

**（部会員）**

今後高齢化が進むにつれ、地域で介護の必要な方や認知症の疑いのある方を発見するのはデリケートで難しいと不安に感じている人も多いと思う。地域包括支援センターの利用がない方の実態調査が必要ではないか。利用のない方が認知の症状が出たときに、自分が認知症を患っていると認識していない方が多いため、地域のサポートの方が地域包括センターなどの利用を進めてもなかなか理解してもらうことが難しい。身近な地域の方がサポートの仕方やケアなどを学んでいただくことで知識が深まり支援体制の構築にも繋がる。

**（市）**

過去に高齢世帯を全戸調査したこともあるが、市だけで取組み、発見をすることは中々難しい。高齢世帯を訪問しても、訪問だけでは見えにくい部分が多く、一番その部分が見えているのは地域の方ではないかと思う。そういった部分で、社協のきずな計画とも役割分担の中で連携をしていく必要があると思う。市が単独で行うのは難しい。重層的支援を活用することが今後の課題である。

**（部会長）**

　・見守りや安否確認は地域で行っているが、新型コロナウィルスの影響で、サロンなどが行えず確認も難しくなっている、

　・この状況の中で、どのように人を集めるのか、幅広く地域や民生委員も含めて情報共有ができないかと思う。

**（部会員）**

　・高齢者の見守りという点では、リリー文化幼稚園の運営母体の学校法人北斗文化学園は、介護学科も設置しており、新型コロナウィルス感染症の影響でサロンなどが開催できず、高齢者の方が引きこもってしまい、ご家族の方から心配する声が学校に寄せられていると聞いている。

　・介護学科で自立支援を専門的に学んでいる生徒がいるため、安心塾というものを実施し、高齢者の方に学校に来ていただき、生徒と交流したり、個別の対応を行っている。

　・安心塾に通っている高齢者の方は、半年後には食欲や体力の改善傾向が見受けられ、生徒にとっても自立支援の実践の場になっている。ぜひ自立支援の実践の場にお声かけいただきたい。

　・全国的な問題として介護士不足があると思う。登別市でも介護士が増えれば介護事業者も安心して利用者を受け入れる体制ができると思う。

　・高齢者と若者が散歩するような地域であると、それを見ている若者ももっと介護に興味を持ってもらえると思う。

　・北斗文化学園は市と包括連携協定を結んでいるので活用することは可能である。

**（市）**

　・日程が合えば、サロンが開催されている場におじゃまして、市の自立支援の情報提供などの新しい取組は可能である。

**（部会長）**

・この計画の下地は市民へのアンケートになっている。前回は1,500人くらいであったが、今回は3,000人へ実施し、1,000人以上の回答を得ている。人数に対し評価したい。

**（市）**

・ぬくもり部会としてご意見があれば、ご意見をお寄せいただきたい。

**（部会長）**

・次回の部会は虐待の関係（全国ではどのようになっているのか）などについて

　・社協のきずな計画の説明もお願いできればとも思う。

　【次回について】

　●日程：事務局より連絡